

### 3 大豆奨励品種候補「サチユタカ」の特性

#### ねらいと成果

大豆奨励品種「タマホマレ」は豆腐用としては低タンパク質で、また煮豆用としては硬く流通評価が低い。一方、農林水産省では高タンパク質が特徴の「サチユタカ」(九州131号)を育成した。

本県では1996年以降これを試作検討し、優れた栽培適性を認めた。

#### 内容

「サチユタカ」は農林水産省九州農試(現農研機構九州沖縄農業研究センター)で「フクユタカ」と「エンレイ」のF<sub>2</sub>を母、「エンレイ」を父として育成され、2001年5月に品種登録された。

「タマホマレ」より開花期は3日程度遅く、成熟期は同等で中間型中生に属する。胚軸は紫色、葉形は円、花は紫色である。主茎長は「タマホマレ」よりやや短い。倒伏、蔓化に強い。病害には概ね強いが、ダイズモザイクウイルスの抵抗性が若干劣る。

北部農技場内における試験の結果、子実重は標準播では「タマホマレ」より優り、晩播で劣った。子実は大粒で、百粒重で「タマホマレ」より6g程度

重かった。外観品質は標準播でやや優るが、晩播でやや劣る。粒の障害は全般に少ない。タンパク質含有率が約5%高く、育成地の成績では豆腐の加工適性は良好であった。

高タンパク質大豆は一般に低収、品質不良であるが、「サチユタカ」は収量、品質とも優れる。

現地8か所(三田市・稲美町・八千代町・龍野市・南光町・春日町・香住町・八鹿町)で2か年試作した結果、倒伏、蔓化に強かった。晩播の例が多く、子実重は全体としてはやや劣るが、外観品質は同等～やや優り、総じて本県広域への適応性が認められた。

#### 今後の方針及び普及上の留意事項

2002年度に奨励品種に採用し、豆腐向き品種として「タマホマレ」に置き換えて普及して行く予定である。

県下平坦～中山間地域の6月上旬～7月上旬播き栽培に適する。ウイルス抵抗性が十分ではないので初期のアブラムシ防除を徹底する。

来田 康男

(中央農技・原種農場、前北部農技・農業部)

表1 「サチユタカ」の特性

作期	品種名	播種期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	生育中障害 (0~5)		主茎長 (cm)	子実重 (kg/a)	同左比率 (%)	百粒重 (g)	粒の障害 (0~5)			粒の外観品質 (1~7)
					倒伏	蔓化					紫斑	褐斑	裂皮	
標準播	サチユタカ	6. 8	7. 30	10. 30	0. 4	0. 0	56	33. 4	107	34. 8	0. 4	0. 2	0. 6	3. 0
	比)タマホマレ	6. 8	7. 27	10. 30	0. 6	0. 0	61	31. 3	100	28. 8	1. 2	0. 0	0. 6	3. 8
晩播	サチユタカ	7. 3	8. 12	11. 8	0. 5	0. 0	56	28. 1	88	36. 3	1. 0	0. 0	1. 5	4. 5
	比)タマホマレ	7. 3	8. 9	11. 8	0. 0	0. 0	69	31. 8	100	29. 8	1. 0	0. 0	0. 5	3. 0

注1) 試験場所: 北部農技農業部。

2) 供試年: 標準播1996~2000、晩播1999~2000。播種密度: 標準播8.9株/m<sup>2</sup>、晩播13.3株/m<sup>2</sup>、共に2本立。

表2 「サチユタカ」の特性

品種名	胚軸色	葉形	花色	環境適応性		子実の特性			子実タンパク質含有率 (%)
				晩播	密播	形状	種皮色	臍色	
サチユタカ	紫	円	紫	中	大	球	黄	黄	41. 1
比)タマホマレ	紫	円	紫	大	大	球	黄	黄	36. 5

注1) 試験場所: 北部農技農業部。

2) 子実タンパク質含有率は同加工流通部調べ。対乾物%で表示、換算係数5.71。

